

日本応用地質学会東北支部「第1回研究発表会」

太 田 保

この発表会は講演の部と発表の部に区分され下記の内容で実施された。

協 賛：東北地質調査業協会

日 時：平成5年2月12日 午前10：30～16：40

場 所：仙台市青年文化センター エッグホール

参加数：60人

講 演：「高レベル放射性廃棄物と地層処分」

動力炉・核燃料開発事業団 佐久間 秀 樹 氏

「岩盤斜面の変形と崩壊」

(財)国土開発技術研究センター 桑 原 啓 三 氏

発 表：10編の発表で4セッションに区分して実施。

内 容： この会は北村支部長の挨拶で定刻に開始された。午前中の講演の司会は日本大学の田野久貴氏、午後の各セッションは橋本修一氏、藤島泰隆氏、斉藤芳徳氏、田倉治尚氏の4氏の司会で実施された。

佐久間氏の講演は岩手県釜石鉱山で現在進められている放射性廃棄物の処理実験の状況や今後の展開等についてOHPを用いて講演された。結論としては現在進めている地層処分で安全性は確保出来るとの事であった。今後も研究を継続する方針である。(別紙資料配布)

桑原氏の講演は建設省土木研究所地質官時代を中心に収集した事例についてスライドを用いて講演された。この講演の中で大規模崩壊の事例が紹介された。この講演の中で、現在地すべり、トップリング、岩盤崩壊等の用語の適応について統一がなされていない点を指摘された。今後も事例を収集して、この分野の研究を深めて行きたいとのコメントがあった。(別

紙資料配布)

研究発表は日本大学3編、と岩手大学が2編で岩盤に関する基礎的研究と各コンサルタントが5編の道路法面、トンネル、透水試験、空洞調査、地すべり対策の腐食対策などの事例発表に区分された。これらの発表については「第2回研究発表会講演集」として製本している。

懇親会： 午後5時からレストラン昂で懇親会を実施した。参加人数は50人。この会では講演者の桑原氏や支部長を囲みなごやかな雰囲気の中に終了した。

頒布図書： この会では応用地質学会発行の図書の販売も実施した。これらの図書は今後、東北の地質や岩盤に従事する技術者には必見のものと考えられる。

- ・東北地方土木地質図 (S = 1 : 500,000) ……定価 3,000円
- ・日本の岩盤分類……………定価 3,500円

以上

(株式会社 復建技術コンサルタント)

